

柱と壁の結束作業を体験

ハッカーを手に真剣に

今宮工科高校定時制で出前講座

関西鉄筋工業協同組合（岩田正吾理事長）は11月29日（木）、大阪市西成区の大阪府立今宮工科高等学校定時制で出前講座を実施しました。同校定時制での出前講座の開催は、1年生を対象にした11月13日（火）に続くもので、今回は建築系の2年生と3年生合わせて11人が参加し、ハッカーを使った鉄筋の結束作業に取り組みました。

1時限目の開始となる午後5時5分から始まった講座では、最初に組合の戸田裕雄副理事長が「鉄筋は建物が完成すると外からは見えなくなってしまうが、私たちが普段、直接鉄筋を触り、結束する作業を通じていかに水平・垂直・斜めに注意して鉄筋を組み立てているかを体感してほしい。短い時間だが、この講座を通じて少しでも職人の技術のすばらしさを感じてほしい」と挨拶しました。

引き続き、生徒たちは2班に分かれてまず高さ1750ミリの柱筋の組立作業に取り組み、講師の指導や助言を受けながら真剣な表情でハッカーを使って結束作業を行っていました。そして、柱が組み上がると今度は二つの柱をつなぐ1スパン2400ミリの壁筋の組立作業に挑戦し、2時限目が終わる午後7時30分少し前に講座を終了した。

講座終了後の講評で、講師を務めた森山直樹技術部会長は「鉄筋工事は大変な仕事だが、組み終えた時の達成感は大きい。何事も上達するには時間がかかるが、楽しくなければ続かないのも事実だ。皆さんも就職したら仕事を楽しく、そしてベテランと言われるようになってほしい」と激励しました。また、同校の根来則義准校長も「建築系で学んでいる生徒だけに関心も高く、とても気持ちの入った講座だった。この経験をこれからの職業選択の際の参考にしてほしい」と講評しました。

今回の出前講座に参加した組合関係者は次の通り。

- ・ 戸田裕雄副理事長（戸田鉄筋）、森山直樹技術部会長（城東鉄筋）、恵谷信氏（恵谷鉄筋）、長木鉄次氏（長木鉄筋）、田村晃一氏（田村工業）、福本貴至氏（福本鉄筋工業）、今村俊郎氏（吉岡工業）。

